

インプレスグループ

国内グループ13社の財務・経理業務を効率化
柔軟性の高い会社合算機能や
充実したシステム連携、標準搭載BIなどを評価

Company Profile

株式会社インプレスホールディングス

代表取締役社長：関本 彰大

所在地：東京都千代田区三番町20

設立：1992年4月1日

資本金：53億4102万円

Web：http://www.impressholdings.com

株式会社Impress Professional Works

代表取締役社長：関本 彰大

所在地：東京都千代田区三番町20

設立：2014年7月1日

資本金：3000万円

Web：

http://www.impressholdings.com/info/
profiles/iw.htm

(2014年9月現在)



メディア企業グループ・インプレスグループは、「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」を主要テーマにした、専門性の高い独自のメディア&サービスを展開しています。

たとえば、誕生20周年・シリーズ6000万部突破のパソコン解説書『できるシリーズ』や、IT関連情報を中心にAV・ゲーム・モバイルなどのデジタル総合ニュースサービス『ImpressWatch』シリーズは、インプレスグループに所属する株式会社インプレスが提供しています。さらに、音楽専門雑誌や楽譜・スコア・教則DVDなどを出版する株式会社リットーミュージックや、山登り・アウトドア・スキー・自然関連の雑誌・書籍などを出版する株式会社山と溪谷社も同グループに属しています。

そのグループの中で、経営及び販売/物流管理業務を主とする株式会社ImpressProfessionalWorksは、従来から利用していた会計パッケージのバージョンアップ停止とWindowsのサポート終了をきっかけに、会計システムのリプレースを実施。柔軟性の高いシステム連携機能と会社合算機能、標準搭載のBI機能による充実したデータ出力/分析力などを評価して、ZeeM会計を導入し、さらなるグループの発展を目指しています。

ZeeM 会計の主な評価ポイント

システム側の視点

- 他システムとの連動およびデータ移行の容易さ
- 安定した保守サービス、サポート品質

ユーザー側の視点

- 柔軟性の高いマルチカンパニー機能
- ユーザーフレンドリーな操作
- 制度変更へのスピーディな対応

経営側の視点

- 優れたコストパフォーマンス
- 充実した出力帳票/データ出力/データ分析機能

機能と導入期間と価格の3つのバランスがうまくとれていたのが「ZeeM 会計」でした。

きっかけは 会計パッケージと Windowsのサポート停止

「システム入れ替えの直接のきっかけは、これまでの会計パッケージとWindowsのサポート終了でした。そこで、この機会に、従来のシステムでできていた事を継続することはもちろん、使いにくかった点も見直すことになりました」

このように語るのは、グループの経営及び販売/物流管理業務を主とする株式会社Impress Professional Works（以下インプレスPW）グループ技術・開発部の関英彦氏です。

「グループ技術・開発部では6名のメンバーにより、主にグループ共通で使用する基幹システムや業務システムの開発・保守・業務サポートを行なっています。

当社の会計システムは、独自開発の基幹システムと財務会計パッケージ・連結パッケージで構成されています。特徴的な

は、自社で発行している書籍やデジタル製品を管理するため、最大20桁におよぶコード体系を持っている点です。会計システムにも対応が必要でした」

「これまで利用してきた会計パッケージは、古いバージョンを使い続けていたため、操作性や安定性の面でユーザーの不満がありました。

また、外部システムとの連携において仕様が明確でないところがあつたため、中間のEAIツールを更新する際にもかなりの工数がかかっていました。連携部分がブラックボックスとなることで、例えばマスタが連動されないといったトラブルが起きた時に原因の切り分けがしづらくなるだけでなく、調査を依頼した場合も時間を要するケースが多くなります。そのほか、帳票の出力内容をカスタマイズしたい、BIツールを活用したいといった要望にも応えられていませんでした」（関氏）

そこでインプレスPWは、下記の項目を選定基準に、あらたな会計システムの選定作業を開始しました。

「今回、新会計システムの導入対象となったのは、持ち株会社の株式会社インプレスホールディングスと国内100%子会社の合計13社でした」こう説明するのは、インプレスPW グループ財務部マネージャー山崎陽子氏です。

機能と導入期間と価格の3つの バランスが取れている

「会計システムの選定においては、日々の業務の安定性や自社開発した基幹システムとの連携しやすさ等の『機能』と、WindowsXPのサポート切れ前に13社全ての入れ替えを完了するための『導入期間』と、費用対効果としての『価格』の3つの観点から、候補のシステムを評価していくという手法を取りました。

会計システム選定基準

インプレスホールディングス独自要件

- 自社開発の基幹システムとの相互データ連動
- 制作マスタ（20桁）の実装
- 2014年3月までに13社稼働開始 など

価格帯を上げれば、希望したことが実現できるシステムもありました。また、希望が実現できたとしても、自由度が高すぎるシステムの場合、運用側で決めべきことが多くなり、導入にかかる期間が長期化してしまいます。経理側としては、日本の会計基準に準拠し一定水準の機能を持っているコンパクトな会計パッケージソフトウェアにすることで、経理担当者の仕様設計負担をできるだけ軽くしたかったのですが、ある程度の自由度がないと、自社開発している基幹システムとの連携が取れないため、システム部門と何度も協議を重ねました。その結果、経理部門とシステム部門、二方向から見て問題なく、且つ、『機能』『導入期間』『価格』の3つのバランスが取れていたのがクレオのZeeM 会計でした」(山崎氏)

「従来のシステムでも実現していた、20桁の制作コードのデータ連携は必須要件でした。

これに加えて、ZeeM 会計はBIツールが標準装備されている点が、今までになかった機能ということで経営層に高く評価されました」(関氏)

ZeeM 会計で実現できた会計業務の効率化

ZeeM 会計を導入したことで、会計システムの使い勝手は大きく改善されたという。

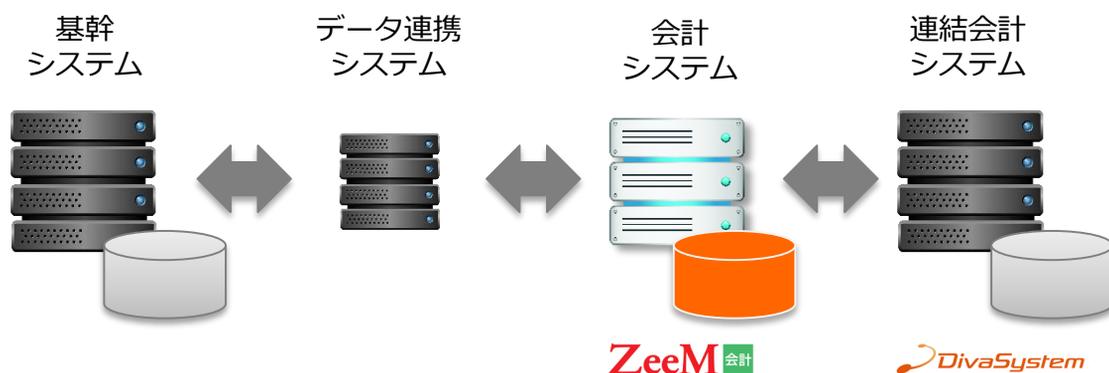
「今年度、グループ会社の新規設立があり、ZeeM 会計を利用する会社が増えました。会社を追加する場合、今まではベンダーに設定を依頼せざるをえない部分がありましたが、ZeeM 会計導入後は、ZeeMサポートに問い合わせつつマニュアルを拝見しながら、自社で会社の追加を行うことができました。」(山崎氏)

「業務に関して言えば、例えば処理中に不正なデータが入った場合でも、ZeeM会計では必ずログが残るうえに再取り込みも容易で、トラブルに陥ってもリカバリしやすくなりました。

また、外部から取り込んだデータを削除する事ができ、赤伝票を起こさずに取り込みをやり直す事ができるようになりました。併せて、未承認伝票を帳票に反映する事ができるので、取り込んだデータを承認する前に帳票を確認して、問題があれば削除してやり直す、なければ承認して本伝票にするといった柔軟な運用が可能になりました」(関氏)

「ZeeM 会計には、標準帳票の他、データ分析活用ツールであるBIが標準装備されています。会社合算機能とBIを組み合わせることで、分析の幅が広がりました。会社合算機能を利用して一元化したデータをBIに展開することで、親会社・子会社1・子会社2と横並びで表示し、グループ全体の業績をExcel上で瞬時に把握できます。また、DivaSystem（連結会計システム）との連携が非常にシームレスで、ストレスがなくなりました。」(山崎氏)

会計関連システムの構成





「組織図機能も評価しています。集計用の仮想部門を自由に配置できるので、ユーザー側で任意の粒度・範囲で集計できるようになりました。

グループ各社に組織図の管理を任せられるようになり、精度が向上し、システム側の作業負担も減っています。

また、ユーザーが直接サポートに問合せできるようになったのも利便性が向上した点です。以前は、システム部門が受けた問合せをベンダへ中継する2段階の形になっていました。問合せ頻度は、月に10件から20件程度ですが、それをこちらで集約する必要がなくなり大変助かっています。さらに、消費税アップの対応ツールや定期的なバージョンアップなど、継続的なサポートを得られる点も、大変満足しています」(関氏)

ZeeM 会計の新たな機能の活用と安定稼働を目指す

「今まで、四半期毎の制度連結決算のみDivaSystemを利用し、月次ベースでの管理連結はExcelで行っていましたが、ZeeM 会計から未承認伝票も含めてDivaSystemへデータを取り込むことができるなどの連携自由度が高まったため、今後は月次ベースでのZeeM会計とDivaSystemの連携を視野に入れ、月次連結をシステム化していきたいと考えています。

また、ZeeMユーザー会や機能改善要望意見交換会があると伺っております。ユーザー同士の交流を深め、ユーザとして更なる機能強化の要望を出させていただきながら、お互い切磋琢磨し、より良い関係を今後も続けていければ幸いです。」(山崎氏)

「システム部門の視点としては、障害が起きないといった安定稼働を一番に考えています。何か起きたとしても迅速に対応できる体制を整えるなど、安心してシステムを利用できる環境を維持継続していくことも大事だと考えます」(関氏)

※ 掲載内容は、2014年9月現在のものです。

※ 「ZeeM」は、株式会社クレオの登録商標です。

※ 「DivaSystem」は株式会社ディーバの商標です。

※ その他記載されている会社名、システム名、製品名は一般に各社の商標、又は登録商標です。



お問合せ

株式会社クレオ

〒140-0002

東京都品川区東品川4-10-27

住友不動産品川ビル12F

URL <https://www.zeem.jp/>

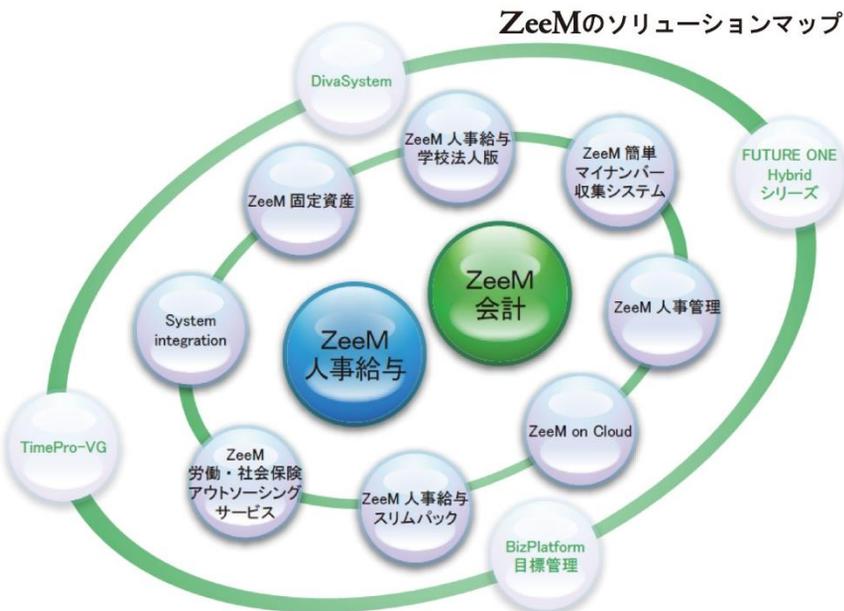
TEL 03-5783-3540

ZeeM for your smile ~お客様の笑顔のために~

企業を取り巻く環境変化のスピードは近年著しく早まっています。特に法改正といった大きなインパクトに対応しつつ、より付加価値を生み出すことを求められる人事部門や経理部門にとって、ルーティン業務の効率化は必須と言えます。ZeeM は現場の業務効率とデータ活用による付加価値を追求していただける業務パッケージとして、人事部門・経理部門の業務を支援して参ります。



ZeeMは1993年から約2000社の導入実績を誇る人事給与システムと会計システムを核としたトータル業務ソリューションです。業務アウトソーシングからクラウドを活用したシステムアウトソーシングまで、幅広く人事部門様・経理部門様をサポートいたします。



ZeeMは顧客ロイヤルティ調査で最高評価を獲得しています

矢野経済研究所【調査概要】

矢野経済研究所では基幹システムの利用動向調査を実施、評価指標としてNPS※を用い、顧客ロイヤルティの測定を行いました。

調査件数：194件（ERPパッケージ利用、人事・給与部門の回答数）

調査対象：日本国内の民間企業及び自治体

調査方法：記名式郵送アンケート調査

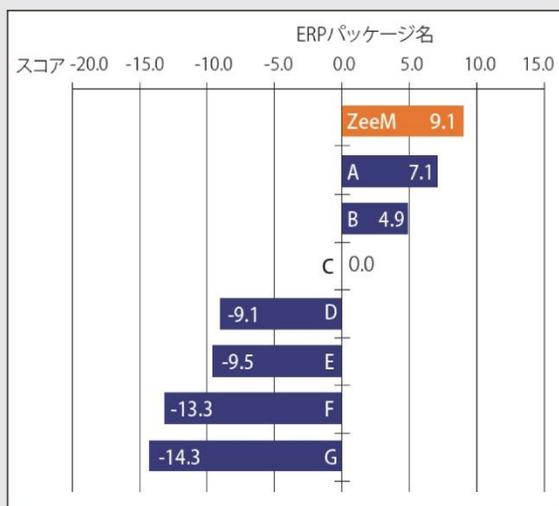
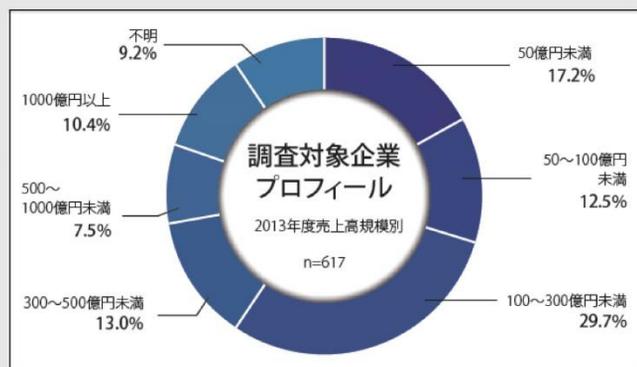
調査期間：2014年7月～2014年10月

調査条件：

・「人事・給与」「財務・会計」など業務分野ごとに利用しているパッケージのNPSを調査。

・矢野経済研究所が、ERPパッケージ（基幹業務を統合する情報システムを構築するためのパッケージ）と区分している製品を対象とし、一定数（10件）以上の回答数を得た製品間で比較。

※ NPS、Net Promoter、およびNet Promoter ScoreはSatmetrix Systems, Inc., Bain & Company, Fred Reichheldの登録商標です



お問い合わせ



株式会社クレオ

〒140-0002 東京都品川区東品川4-10-27住友不動産品川ビル12F
URL <https://www.zeem.jp/> TEL 03-5783-3540 FAX 03-5783-3541